

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都新宿区矢来町 89-2
園名	アスク神楽坂保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

なきごえ

<テーマの設定理由>

視覚障害児の子どもがいるため、「なきごえ」を探求することで全員が同じように取り組めるため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：動物の鳴き声は日本語と英語で似ているものもあるが同じではないことを知ろう

12月：英語の動物の鳴き声を発表しよう

1月：好きな動物の鳴き声を覚えて動物の絵を描いてみよう

2月：自分は何の動物を選び、何色で描いたのか、英語で発表しよう

3月：動物の鳴き声を聞いて、英語で

答えてみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

<準備物> プロジェクター、タブレット、動物のカード、国旗カード、スピーカー

<環境設定>

- ・子どもたちひとりがクイズに答えたり、講師の手伝いをしたり出来るように工夫した。
- ・動物の鳴き声を英語で答えられるように一緒に考えたり調べたりする。
- ・子どもたちが困っている際はヒントを出したり、一緒に考えたりして正解に導くようにした。
- ・発表に緊張する子どもがいたため、発表がしやすい雰囲気作りを心掛けた。
- ・分からない子には保育者がヒントを出したり、側に寄り添ったりするようにした。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

- ・動物の鳴き声が日本語と英語で違うことをクイズで知り楽しもう
- ・英語でどんな鳴き声だったか覚えているか、好きな動物の鳴き声を覚えて動物の絵を描いてみよう
- ・何の動物を何色で描いたか。鳴き声を英語で言ってみよう
- ・動物の鳴き声を当てよう、動物の鳴きまねをしよう

探究活動の様子：

- ・流れる映像や鳴き声を楽しむ様子があった。日本語と英語の違いに少し戸惑う様子が楽しんで行っていた。
- ・鳴き声分からず戸惑う姿もあったが、講師に教えてもらおうと繰り返し声に出し楽しむ様子や動物の動きの真似を併せて行う児もいた。
- ・保育者や講師が動物の鳴き声を真似すると楽しそうに話を聞く様子が見られていた。
- ・一人ずつ日本語で答えた後、講師が英語で伝え、英語で発表してみる。恥ずかしそうにしながらも鳴き声をまねしていた。
- ・じゃんけんや英語の鳴き声当てを組み合わせることで子どもたちも興味を持って楽しむ様子が見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

- ・3歳児が分かる簡単な動物の鳴き声でクイズをしたことで、驚きや発見につながる様子が見られていた。またやりたいとやる気を見せる児が多くいてよかった。
- ・鳴き声をすぐに覚えるのは3歳児には少し難しい部分もあると感じたが、動物自体には親しみがあるため活動を楽しむ様子が見られてよかった。
- ・内容が少し難しい為保育者が先導して活動をしていくようにした。楽しめている様子が見られたため、やる気を引き出せるような声かけをしたい。
- ・外国人講師に緊張している子が多かったので落ち着けるように拍手して盛り上げたり、側に行き見守るようにした。
- ・英語の質問には少し戸惑う様子が見られたが、保育者が翻訳しながら仲介することによって楽しむ様子が見られた。

【4歳児実施分】

問いを考える：

- ・動物の鳴き声は日本語と英語で似ているものもあるが同じではないことを知ろう
- ・覚えている動物の英語の鳴き声を発表しよう
- ・英語でどんな鳴き声だったか覚えているかな、好きな動物の鳴き声を覚えて動物の絵を描いてみよう
- ・自分は何の動物を選び、何色で描いたのか、英語で発表しよう
- ・よく話を聞いて、聞かれた質問に英語で答えよう

探究活動の様子：

- ・プロジェクター、タブレットを使用し動物の鳴き声のクイズをすると、鳴き声に驚く姿が見られた。子どもたち同士で日本語と英語の違いについて考える様子が見られた。
- ・日本語の鳴き声のイメージが強く、英語で答えるのが難しい様子だった。次々に流れてくる動物の鳴き声クイズに楽しく参加していた。
- ・覚えている鳴き声があった時は大きな声で積極的に答えていた。好きな動物が一緒の児同士で絵を描くことを楽しんでた。
- ・英語で発表することが難しい子どもは、講師に英語で訳してもらいながら日本語で発表していた。発表することに緊張していたが楽しみながら発表していた。
- ・質問の内容や答えが分からず困っている子どもや同じことの繰り返しに飽きてしまう子どもがいた。覚えている鳴き声には積極的に発言していた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

- ・インパクトがある鳴き声を何度も繰り返し話す姿があった。子どもたちと一緒に振り返りをすることができて良かった。
- ・動物のカードを見ただけでは英語の鳴き声を引き出すのが難しかった。発音練習ではリズムよく楽しんでいる様子が見られて良かった。
- ・楽しく参加していたが、鳴き声のクイズは全体的に難しい様子だった。講師の先生や友達同士でやりとりを楽しみながら取り組めていて良かった。
- ・英語で発表することが難しい様子だった。発表することに対して緊張している子どもの姿も見られたが、スタンプが貰えたことで楽しく取り組めていて良かった。
- ・英語の質問に英語で答えることが難しい様子だった。難しい中でも答えようと一生懸命取り組むことができてよかった。

【5歳児実施分】

問いを考える：

- ・動物の鳴き声は日本語と英語で違うことを知ろう
- ・自分たちで調べた英語の動物の鳴き声を発表しよう
- ・英語の鳴き声を覚えているか/好きな動物の鳴き声を覚えて絵に描いてみよう
- ・どんな動物を何色で描いたか英語で発表してみよう
- ・動物の鳴き声を聞いて、英語で答えてみよう

探究活動の様子：

- ・プロジェクターの映像で流れる動物の鳴き声に驚く様子や真剣に考える姿が見られた。英語より日本語で答える子が多くいた。
- ・英語で答えるのが難しい様子だったが、英語の鳴き声を知ることが出来ると嬉しそうな様子が感じられた。
- ・覚えている鳴き声があった際は堂々とした様子で発表する姿が見られた。分からない際も、諦めず友だちと一緒に考える様子があった。
- ・少し発表を恥ずかしがる児もいたが、英語の講師と一緒に発表を行う。他児もそれぞれの発表に興味を持って聞く様子があった。
- ・英語で答えることが難しく、困っている様子が多く見られた。覚えている鳴き声は大きな声で自信を持って答える姿が見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

- ・子どもたちと一緒に英語と日本語の鳴き声の違いを振り返ることが出来た。気に入った英語の鳴き声を繰り返し発音していた。
- ・すぐに英語の鳴き声を覚えるのは難しいため、興味のある動物や発音しやすい動物から知っていけるようにしていきたいと感じた。
- ・全体的に英語の鳴き声が難しく、困っている様子が見られたため、保育者も子どもたちと一緒に考えるようにした。
- ・英語で発表することが難しい児がいたが、職員の仲介によって自信を持って発表することができてよかった。
- ・英語の質問に英語で答えるのは難しい様子だった。分からない質問にも諦めず、考えようとする姿が見られたので良かった。

※写真



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都新宿区矢来町 89-2
園名	アスク神楽坂保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音の高さ

<テーマの設定理由>

季節の歌やピアノ活動を通して音に興味を持っているので、さらなる興味を広げていくため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする。

11月：音を聞いて、紙コップの中に何が入っているか考えてみよう

12月：紙コップの中に好きな素材の好きな量を入れ、音の違いを感じてみよう

1月：缶のボトルに量の異なる水を入れ、バチでたたいて音の高低差を感じてみよう

2月：ばちで叩くとどんな音がするか、ボトルそれぞれの音の違いを感じてみよう

3月：カップの中に水を入れて音の高さの違いを感じ、ドレミを作ってみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

紙コップ、星型のビーズ、ペットボトルキャップ、ガシャポンケース、ペットボトル・水・キーボード・ばち、レゴブロック、花形ブロック、ミュージックベルタッチ

- ・保育室にある玩具を使用し子どもたちが個数や素材の違いで音が変わる様子を楽しめるようにした。
- ・日常的に子どもが見たことのある素材を使用して行うことで親しみをもたせた。
- ・水の量が異なる缶のボトルを数本用意して音の違いが比べられるようにした。
- ・水の量が違うペットボトルを用意し、音の違いを比べられるようにした。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

- ・紙コップに素材を入れ、音を聞いて何が入っているか当てよう。
- ・紙コップの中に自分で選んだ素材を入れ、音を楽しもう。
- ・缶のボトルに量の異なる水を入れ、バチでたたいて音の高低差を感じてみよう
- ・カップをばちで叩くとどんな音がするか、また水の量を変えるとどんな音がするか音の違いを感じてみよう。
- ・水の量が違うカップをばちで叩くとどんな音がするか、音の違いを感じてみよう

探究活動の様子：

- ・紙コップ中に入っている素材の違いで音が変わる様子を楽しんだ。自分たちで用意された中の好きな素材を紙コップに入れ、友達同士で聴き合い発表をする。
- ・子どもたちが作った音を一人ずつ発表し、どんな素材が入っていたか見せ合う。ピアノに合わせて音を鳴らして楽しむ。
- ・子どもたち一人ひとりが順番に缶を叩いて音の違いを感じている様子が見られた。叩く場所によって音が上手く出ないことがあった。
- ・子どもたちが一人ずつ水の量が違うカップを叩き、音の違いを探究する 子どもの様子...音の違いを感じて驚いたり喜ぶ姿があった。
- ・子どもが一人ずつ水をカップに注ぎ、音の高さの違いを感じて嬉しそうな表情をみせていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

- ・子どもたちの身近な素材で音を作り出して楽しむ経験が出来、楽しむ姿が見られてよかった。
- ・保育室にある素材を使用して行ったことで、活動に親しんで行うことができているよかった。
- ・音の違いを楽しむ姿が見られた一方で、缶の叩く場所によって音が出ないことがあった為、マークシールなどで叩く場所を明確に示せた方がより楽しめると感じた。
- ・音の違いを感じて嬉しそうな姿が印象的だった。益々興味を持って楽しめるように様々な道具を使った探求も行っていきたい。
- ・水の量が変わると、音にも変化があるという気づきを子どもたち自身が参加しながら出来て良かった。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

- ・音を聞いて、紙コップの中に何が入っているか考えてみよう
- ・紙コップの中に好きな素材の好きな量を入れ、音の違いを感じてみよう
- ・缶のボトル数本にそれぞれ分量を変えた水を入れ、木ばちで叩くとどんな音がするか音の違いを感じてみよう
- ・ばちで叩くとどんな音がするか、ボトルそれぞれの音の違いを感じてみよう
- ・カップの中に水を入れて音の高さの違いを感じ、三人組になってドレミを作ってみよう

探究活動の様子：

- ・紙コップの中に入っている物や量の違いで、音の変化や違いを感じた。
- ・自分で紙コップの中の物や量を変えて音の違いを感じる姿が見られた。
- ・紙コップの中に入っている物や量の違いで、音の変化や違いを感じた。
- ・子ども同士で紙コップの中の物や量を比べて音の違いを共有しながら楽しむ姿が見られた。
- ・水の量が違う缶のボトルを一つずつ叩いて音の違いを探求する。音階があり驚く姿あった。
- ・子ども一人ずつ順番に缶を叩いて音の高さの違いを感じている様子が見られた。手でおさえることで音が変わることにも気が付いていた。
- ・カップに少しずつ水を注ぎ、調節しながらドレミを作り上げていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

- ・音の違いに気付けるような問いかけをすることを心掛けた。楽しみながら音の仕組みについて理解している様子が見られて良かった。
- ・十分な量の素材を用意したことで、子ども自身で音の違いを感じ、友達と共有しながら楽しく取り組むことができていて良かった。
- ・水の量が変わるとどんな違いがあったか、子どもたちの感想を大切に、丁寧に問いかけるようにした。
- ・水の量、ばちの叩き方によって音の高さに違いが生まれることに気が付くことができていて良かった。楽しく参加する姿が見られて良かった。
- ・子どもが実際に水の量を調節しながら音の高さの違いを感じることができて良かった。

【5歳児実施分】

問いを考える：

- ・紙コップの中に好きな素材を入れて、友だちと音の違いを比べてみよう。
- ・紙コップの中に好きな素材を入れて、みんなの前で発表しよう。
- ・友だちの紙コップの中に何が入っているか考えてみよう。
- ・水の量が違うペットボトルをいくつか用意し、息を吹きかけ、音の違いを感じてみよう。
- ・ばちで叩くとどんな音がするか、ボトルでそれぞれの音の違いを感じてみよう。
- ・水の量が違うカップをばちで叩くとどんな音の違いがあるかな。

探究活動の様子：

- ・子どもたちが、自分で好きな素材を選んで、紙コップの中に入れる。一人ずつ前に出て、自分が作った音を発表する。自分との音の違いに興味を持ち、紙コップの中に何が入っているかを考える姿が見られた。
- ・子どもたちが、好きな素材を選び紙コップに入れる。一人ずつ自分で作ったものを発表する。友だちの紙コップの中身を考え、自分との音の違いを探る姿があった。
- 水の量が違うペットボトルに息を吹きかけ、音の違いを探究する。音の違いに驚く姿が見られた
- ・子ども一人ずつ順番に感を叩く。音の違いを感じている様子が見られた
- ・3つのグループに分かれ、グループごとに水の量を調節しながら注いでいく。慎重に水の量を調節する姿が見られた。音の高さに違いが出来る時、子どもたち同士で喜ぶ姿が見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

- ・子どもたちが音の違いの仕組みに興味を持てるような問いかけをすることを心掛けた。子どもたち自ら、考えたり、実践したりする姿が見られたので良かった。
- ・素材の数によって音の違いが出来る楽しさを感じられるような対応を心がけた。
- ・水の量によっての違いを感じられるような問いかけを心掛けた。
- ・水の量、ばちの叩き方によって音の高さに違いが生まれることに気付くことが出来て良かった。
- ・実際に子どもたちが水の量を調節したことで音の違いをすることが出来てよかった。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都新宿区矢来町 89-2
園名	アスク神楽坂保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身体

<テーマの設定理由>

運動会の練習で縄跳びや鉄棒などの練習を一人ひとりの得意なことを重点的に行ってきた。さらに自分のできることをみつけて自信を持って自分らしく過ごしてほしいと思ったため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらった。また、その時点でのこどもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、こどもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：走る、バランス、ジャンプ力を測定し、どの種目を頑張りたいか発表しよう。

12月：どんな遊びをすると、足が速くなったり、ジャンプがたくさんできるようになったりするかな？

1月：どんな遊びを取り入れることで記録が伸びたか、伸ばせるかを話し合おう。

2月：押す、引く、柔軟の記録を伸ばすためにできる遊びを発表しよう。

3月：柔軟、押す力、引く力の中で自分の選んだ力が伸びているか確かめよう。

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

カラーマーカー、マット、鉄棒、縄

- ・こどもたちが今どんな種目をしているのか分かりやすいように保育室の真ん中で行った。
- ・こどもたちが友達同士で応援したくなるような明るい声掛けを行っていくようにした。
- ・測定中も友達を応援したり一緒にカウントする手伝いなどを頼むことで、全体的に楽しめる雰囲気を作った。
- ・こどもたちのグループに職員が付き、一緒に考えられる環境を作った。
- ・スペースを広く確保し、十分に動きのある活動ができるようにした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

- ・走る、バランス、ジャンプ力を測定し、どの種目を頑張りたいか発表する
- ・体力測定の続きを行いながら、前回の種目の再測定を行い自分の成長を知る
- ・各種目の測定を行い記録する。どんな遊びを取り入れることで記録が伸びたか、伸ばせるかを話し合う
- ・押す、引く、柔軟の記録を伸ばすための活動をみんなで考える
- ・柔軟、押す力、引く力が伸びたかどうか確かめてみよう

探究活動の様子：

- ・友達の記録を観ながら応援する姿や、自分も友達と同じ記録を目指して頑張る姿が見られた。
- ・1回目の記録と2回目の記録で大きく成長が見られ、子どもたちが喜ぶ姿があった。また記録を伸ばすために取り入れた遊びも発表した。
- ・友達の様子を見て自然と「がんばれー！」と声を掛ける姿もあった。友達の前で記録を発表することや種目を行うことに恥ずかしさを感じる児もいた。
- ・職員が中心となり子どものアイデアを引き出した。それぞれの活動を全員で一緒に行い楽しむ姿が見られた。他児が行っている時には「頑張れ」と応援する姿も見られた。
- ・紐を引く活動、柔軟体操、マットを押す活動などで計測を行う。実践した計測内容において、全種目記録の伸びが見られた。子どもたちも記録が伸びたことを喜んでいた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

- ・各種目を楽しみながら保育者、講師が記録を把握することで子どもたちの体力向上につながれると感じた。
- ・子どもたちが種目を楽しむだけでなく、頑張りたい気持ちや日々の活動を通しての体力向上が視覚的に分かることで前向きに取り組む姿が見られた。
- ・測定する中で恥ずかしさから自分の力を発揮しづらい児にはこちらから前向きな声掛けをしたり、楽しい雰囲気作りを講師と行っていったらよかった。
- ・子どもたちのアイデアをうまく引き出すことができた。楽しむ姿が見られてよかった。
- ・安全に活動ができるよう体操講師の補助として動いていくようにした。子どもたちが楽しく活動をする様子が見られてよかった。

【4歳児実施分】

問いを考える：

- ・走る、バランス、ジャンプ力のどの力を伸ばしたいか、どんな練習をしたら良いか
- ・速く走るにはどんな遊びをするといいか・バランスを保つにはどんな方法があるか・遠くに跳ぶにはどうしたらいいか
- ・押す、引く、柔軟の測定を行い、どの記録を頑張りたいか、どうしたら記録が伸びるかを考える
- ・柔軟、押す力、引く力の中で自分の選んだ力が伸びているか確かめよう

探究活動の様子：

- ・友達の記録に興味を示しながら自分の記録に取り組んでいた。「すごい」「頑張れ」と友達の姿を賞賛したり応援したりする様子が見られた。
- ・1回目の記録と2回目の記録を比べる様子が見られた。伸びなかった記録について、どうしたら良いか考える姿があった。
- ・実践した遊びで、どの力を使ったのか友達同士で共有し合う様子が見られた。記録を伸ばすことだけでなく、伸ばすための遊びを十分に楽しんでいた。
- ・紐を引く、柔軟、手押し車などで計測を行う。自分や友達の記録を気にしながらも楽しく活動に取り組んでいた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

- ・記録を知るだけでなく、記録を伸ばすために必要な練習方法などを子どもたち自身で考えることができて良かった。
- ・子ども自身で考え、練習方法を見つけることができて良かった。子どもの考えに共感しながら実践可能な練習方法を見つけることができた。
- ・子どもたち自身で測定記録を振り返り、力を伸ばすための方法を考えることができていて良かった。子どもの考えを尊重しながら一緒に考えたり方法の提案をしたりすることができた。
- ・子どもたちが考え、発表した遊びを可能な限り実践することが出来て良かった。

【5歳児実施分】

問いを考える：

- ・体力測定を行い、走る、バランス、ジャンプ力の中でどの力を伸ばしたいかな
- ・どんな遊びをすると、足が速くなったり、ジャンプがたくさんできるようになったりするか。
- ・押す、引く、柔軟の測定を行う⇒記録が伸びる方法と、頑張りたい記録を考える
- ・柔軟の記録を伸ばすためにできる遊びを発表しよう
- ・柔軟・押す力・引く力の中で自分の選んだ力が伸びているか確かめてみよう。

探究活動の様子：

- ・友だちのことを応援したり、目標に及ばないと悔しがったりする姿が見られた。

前回の記録と比べる姿が見られた。

- ・記録が伸びなかった際は、悔しがりながらも、どうしたら記録が伸びるかを考える姿が見られた。
- ・友だちの記録と自分の記録を見比べる姿が見られた。記録が思うように伸びず方法を子話し合う様子が見られた。
- ・実践した遊びで、どの力を使ったのか友達同士で共有し合う様子が見られた。記録を伸ばすことだけではなく、伸ばすための遊びを十分に楽しんでいた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

- ・記録を伸ばすための方法を子どもたちと考えることが出来て良かった。子どもたちと振り返りを行ったことで次回への意欲にも繋げることが出来た。
- ・測定する中で恥ずかしさから自分の力を発揮しづらい児にはこちらから前向きな声掛けをしたり、楽しい雰囲気作りを講師と行っていったら良かった。
- ・子どもたちのアイデアをうまく引き出すことができた。楽しむ姿が見られてよかった。
- ・子どもたちが困っている様子が見られた際は、助言をするようにした。・安全に楽しく活動が行えるよう体操講師の補助を行った。子どもたちが、自身の活動を振り返ったり、結果を伸ばす方法を考えたりしていたので良かった。

